イバラガニモドキ (新称) について

挿 図 1

久保 伊津男 池ノ上 宏

(東京水産大学)

SOME NOTES ON AN ANOMURAN CRAB, *LITHODES AEQUISPINA*

With 1 Text-figure

ITSUO KUBO and HIROSHI IKENOUE

(Tokyo University of Fisheries)

イバラガニモドキ *Lithodes aequispina*^(a) Benedict (1894) はタラバガニ科 (Lithodidae) のカニであるが、昭和38年(12月)ごろから塩屋岬沖で漁獲されている。福島県磐城市(小名浜)では、通称イワキガニと称して一般に賞味されている。肉はタラバガニにおとらず、きわめて美味である。小名浜魚市場への水揚量は年によって相違するようであるが、年間10~15トン程度である。就業漁船数も年によって変るが、多い年は7隻位に達する。本篇ではこのカニの形態、生態、漁業等についてのべる。

本文に入る前に、このカニの上記のような事柄を調査するのに種々御援助、御協力をいただいた福島県水産試験場長星正二氏、同場資源部長秋元義正氏、浜屋漁業部の高木正恭氏に深甚の謝意を表する。またこの調査に御協力されるとともに、写真の製作に多大の力をかされた東京水産大学助教授高木和徳博士に深く謝意を表する。

記 載

頭胸甲はタラバガニ科のカニであるから、ほぼ西洋梨形で多数の棘を有する。その全棘数^(b)は111~161^(c)である。胃域に15棘余、心域に6棘、あるいは8棘、腸域に3棘を有する。額角はあまり長くなく、ふつう背面に2棘、各側縁に各2棘、先端に2棘、および腹面基部に1棘、合計9棘^(2,3)を有する。成体では甲幅は甲長よりもわずかに大きい。この傾向はとくに雄において強い(表1)。第2触角鱗片の先端には、ふつう大、小2棘を有し、前棘が大きく後棘が小さい(図1, A)。

生時の体色は赤褐色である。

卵^(d)は球形に近い楕円形で、長径、短径それぞれ約1.1, 0.9mmである。生時の色は多少赤味をおびたうすい橙色である。

(a) *aequi* は *equi* と同意である。 (b) 側面、縁の棘および大、小の総棘数。
(c) 3個体しらべた結果。 (d) 生の卵を薄い塩漬にすると美味である。

Table 1. Carapece length(L), carapece width(W) and W/L of *Lithodes aequispina* obtained from waters off Shioyazaki, Fukushima Pref. Unit, cm. 塩屋岬沖産イバラガニモドキの頭胸甲長(L), 頭胸甲幅(W), およびW/L, 長さの単位cm.

♀				♂			
No.	L	W	W/L	No.	L	W	W/L
1	4.7	4.3	0.92	1	11.7	12.2	1.04
2	6.1	5.9	0.97	2	13.2	13.9	1.05
3	6.7	6.5	0.97	3	13.3	13.6	1.02
4	8.2	8.2	1.00	4	13.3	13.8	1.04
5	8.9	8.6	0.96	5	14.0	14.7	1.05
6	9.0	8.8	0.98	6	14.4	15.1	1.05
7	9.4	9.6	1.02	7	14.6	14.8	1.01
8	9.4	9.7	1.03	8	15.5	16.8	1.08
9	9.5	9.5	1.00				
10	9.5	9.5	1.00				
11	9.8	9.7	0.99				
12	11.2	11.3	1.01				
13	11.5	11.5	1.00				
14	12.0	12.2	1.01				

の長さは約2,500mで、これに70~80個の籠をつるしてある。籠と籠との間隔は約30mである。籠の中には各籠2個ずつ円筒形ベークライト製の餌筒がつるしてある。その大きさは高さ10cm, 径7cmである。その壁面には多数の小孔(径1mm位)が付してある。餌にはサンマ, サバ, カタクチイワシなどを用い, 大形魚は適当な大きさに切断して餌筒の中に入れ, カタクチイワシなどはそのまま入れる。

磐城では籠を朝4~5時ごろ海底に投入してその夕方漁獲するものもあり, あるいは何日かたってから漁獲するものもある。

漁期 漁期は長い。磐城では船によって約10ヶ月(12月~9月)出漁する。比較的漁の多いのは11月~6月で, 最も漁の多いのは2月~3月である。1月~2月ごろ, 水深460~490m程度のところでは雄の大きいのがとれ, 3月になって雌雄混獲される。このころの雌には抱卵しているものがみられる。

漁場 塩屋岬沖では漁場は水深450m位のところから形成されるが, この付近では海底部は岩石である。この付近ではほとんど雄だけが漁獲される。これよりも少し深い場所では反対にほとんど雌だけが漁獲される。雌が漁獲される場所の底質は砂, あるいは泥のようである。金華山沖でも同様な棲分け現象がみられるようで, 水深500~600mのところでは漁獲されるカニの90%以上が雌であるといわれている。抱卵した雌は水深700~740m, 砂底質で所々に岩石のあるような海域に多いといわれている。

分布 従来, Bering 海, 184~406英尋(Benedict, 1894); British Columbia 沖 150~200 英尋(275~366m)(Butler and Hart, 1962)などから知られている。オホーツク海では, 南部カムチャッカ西方水深300~600mの海域で漁獲される。本邦近海では塩屋岬沖NE, 距岸約40哩, 水深約500m付近で漁獲される。なお業者の談によると, 金華山沖SE, 距岸30~40哩, 水深500~600mの海域でも本種の漁獲があるといわれている。

漁法 塩屋岬沖, オホーツク海ではカニ籠によって漁獲される。塩屋岬沖では漁獲に北洋漁業のサケ, マス漁業の独航船96トン型鉄船が使用されている。塩屋岬沖で使われているカニ籠は口径45cm位, 底径120cm位, 高さ58cm位で, これに約10mの口紐をつけてある。カニ籠1張

論 議

本種は形態的にイバラガニ(4~6)(俗にアカガニ) *Lithodes turritus* Ortmann (1892) にきわめて近似しているが、額角の形態が著しく相違しているので容易に識別される。イバラガニは学名が示すように額角が塔状で長く、腹面基部の1棘を加えて5棘を有するが、イバラガニモドキでは額角が比較的短かく、前記のように腹面基部の1棘を加えて9棘、あるいは10棘である。またこの両種では分布が異なるようである。イバラガニモドキは北太平洋、ベーリング海、オホーツク海に広く分布しているようであるが、イバラガニは相模湾^(4~6) (600m)⁽¹⁾、土佐湾の深所 (300~600m)⁽⁶⁾ から知られているのみである。

頭胸甲背面の全棘数には大形個体では少なく、小形個体では多い傾向が存在するようである。3個体しらべた結果では、甲長160mmのものでは111棘、112mmのものでは136棘、85mmのものでは161棘である。額角背面の棘は多くの場合2棘であるが、ときに3棘の場合がある。したがって背面の棘数が3棘の場合は、総棘数は10棘で

Fig. 1. *Lithodes aequispina*. A, carapace of male, 160mm in length; B, rostrum (26mm from tip of spine to base of the rostrum), carapace length, 112mm. イバラガニモドキ. A, 雄の頭胸甲 (長さ160mm); B, 頭胸甲長112mmの個体の額角 (基部から棘の先端までの長さ26mm).

ある。第2額角鱗片先端の棘数は、Butler and Hart (1962) によると3棘の場合もあるようであるが、3棘のものはきわめて少ない。

雄では、比較的若い個体は得られていないので不明であるが、雌で頭胸甲長9cm程度のもの以下の小さい個体では、甲長は甲幅よりも大きい場合が多い傾向がみられる。甲長が9cm以上の大きい雌では、甲長と甲幅はほぼ等しいか、あるいは甲幅が甲長よりもわ

ずかに大きい。甲長 11.7~15.5cm の範囲の雄では、つねに甲長よりも甲幅がわずかに大きい(表1)。

文 献

- (1) Balss, H. 1913 Ostasiatische Decapoden 1. (Die Galatheiden und Paguriden). Abhandlungen der math. - phys. Klasse der K. Bayer. Akademie der Wissenschaften 2. Suppl. - Bd. 9. Abhandlg., pp. 1~85, Taf. I~II.
- (2) Benedict, J. E. 1894 Description of new genera and species of crabs of the family Lithodidae, with notes on the young of *Lithodes camtschaticus* and *Lithodes brevipes*. Proc. U. S. Nat. Museum, 17 (1016) 479~488.
- (3) Butler, T. H. and F. L. Hart 1962 The occurrence of the king crab *Paralithodes camtschatica* (Tilesius) and of *Lithodes aequispina* Benedict in British Columbia. J. Fish. Res. Bd. Canada, 19 (3) 401~408.
- (4) 中 沢 毅 一 1927 日本動物図鑑, p. 1048, fig. 2019; 1954 (第13版), p. 732, fig. 2117. 北隆館(東京).
- (5) 三 宅 貞 祥 1965 新日本動物図鑑(中), p. 651, fgi. 1110. 北隆館(東京).
- (6) Ortmann, A. 1892 Die decapoden Krebse des Strassburger Museums 4. Zoologische Jahrbücher, Abteilung für Systematik, 6: 320~321, Tab. 12, fig. 26.

Résumé

A new locality is found from Japan on the crab, *Lithodes aequispina* Benedict (1894). This crab has been taken from waters, 450~740m in depth, off Shiroyazaki, Fukushima Prefecture. The crab in question is characterized by the rostrum, which is armed with 9 (Fig. 1B) or 10 spines. Sometimes 3 spines are found on the dorsal surface of the rostrum, when the spines of the rostrum enumerate 10 spines in total number. The carapace furnished with 111~161 acute short spines (Fig. 1A). This spines have a trend decreasing in number with growth. An individual, 85mm in carapace length, bears 161 spines, that, 112mm long, has 136 spines, and that, 160mm long, has 111 ones.

In adult form, the width of the carapace is larger than the length of the carapace. This inclination seems to be a little more salient in male than in female as shown in the Table 1.

The egg of this crab is comparatively larger, measuring ca. 1.1mm in longer diameter, ca. 0.9mm in shorter one.

Fishery of this crab, in Iwaki city, Fukushima Pref., takes place during the months from December to September. Vigorous season ranges from January to March. Some females taken in March are found bearing eggs beneath abdomen. This crab is fished by using a cage about 45cm and 120cm in diameter of the mouth and the bottom respectively, about 58cm in height. Some fishes, such as scomber, saury, sardine, anchovy, and others are used for the bait.